

平成 14 年 10 月 28 日

<NTVとの面談メモ>

日時:平成 14 年 10 月 24 日 14 時～15 時 00 分

場所:日本テレビ放送網株式会社

面談者:

(NTV側)

日本テレビ放送網株式会社 審査室考査部長 伊藤 和明

〃 〃 編成局プロデューサー 石橋 久子

(株)日本テレビエンタープライズ クリエーターズセンター

プロデューサー 久保田 誠

(協議会側)

佐藤議長、藤岡、桂、古金

主なやりとり(協議会からの申し入れとNTV側の返答):

1. 今回の報道を行った科学的根拠をお伺いしたい。

医学界の現状や、WHO、アルツハイマー病協会等の見解を全く無視して少数説のみを断定的に取り上げたのは問題である。

(N)この問題について当局で取り上げたのは「きょうの出来事」「特命リサーチ 200X」に次いで3回目である。今回も事前の調査を行って番組づくりをしている。しかし、番組の性格上、視聴者に話を分かりやすく伝えるために、両論取り上げなかったことは結果として問題があり、お詫び申し上げる。

(協)報道をするからには、そう判断した根拠が必ずある筈であり、それを質問状の中で何度も聞いているが、明確な回答を頂けていない。

(N)当日出演いただいた、山田先生の考えの紹介が中心になった。

もちろん、番組作成の責任は当局にある。

(協)山田氏のいわゆるアルミ黒説だけを取り上げたのは、あまりにも一歩的であり、かつ視聴者をミスリードするものである。

2. 「アルミニウムを多量に摂取した場合の毒性については、医学的において一般的に認知されている」とは具体的に何を指しているのか。特殊状況下での神経毒性(透析脳症)とアルツハイマー病を混同しているのではないか。

また、「蓄積されると毒」というが、摂取したアルミニウムはほとんど排泄されるので蓄積するという前提自体が間違っている。

「健康な人がより健康を維持するための秘訣」(2回目返答書より)であれば尚更、起きないことを前提にするのは矛盾している。

(N)「健康な人が～」の趣旨は、病気になってしまった人の治療法を紹介する番組ではない、との意である。

アルミニウムは蓄積されないというが、本当にそうなのか。(当方より人体のアルミニウム量はほぼ一定で、殆どは糞便中に排泄され、ごく微量が吸収→排泄されていることを説明)

3. ホームページの当日分を削除したことが、「番組の都合で調整中」という現在の表示では全く伝わらない。ホームページに具体的な内容、訂正を掲載できないか。

(N)即答は出来ない、検討の上返答する。

4. 別の番組で同様のことが起きるのではないか。今回の件を局内に周知する方策を示してほしい。

(N)番組製作の基本として、十分な調査を行い、両論あるものは両論伝えるのが大原則で、これは今回の件を伝える・伝えないで変わるものではない。今回は起こるはずのないことが起きてしまった。それについてはお詫び申し上げている。

(協)今回が3回目ということは、その原則が働いていないのではないか。

(N)前2回の報道については、問題ないと考えている。

(協)今回の我々の情報提供を受けた上で、今後の番組づくりにおいて、日本テレビとしてはアルミニウムとアルツハイマー病の関係についてどのような判断をするのか。

(N)その時その時に集めた情報に応じて判断する。

5. 本日の面談、申し入れに対する返答を文書で回答する。

(N)ホームページの件もあるので、文書で回答する。

<感想等>

協議会からの質問・指摘に対し、

- ① 科学的な根拠は、ほとんど全てがコメンテーターの山田氏の考え方を全面的に受け入れて作成しており、その際に、他の情報に関する調査や検討は全く行われていないようであった。

② 従って、「純粹に配慮に欠けた」「作り方に問題があった」などの発言があり、両論伝えなかったことについては日本テレビ側のミスを認めた。

③ 面談全体を通して、コメンテーターの山田氏の考え方や情報を鵜呑みにしており、伊藤氏は事前調査していたと言うものの、実際には他の異なる情報の存在さえほとんど知らずに又は調査せずに番組作成をしており、我々の指摘で初めて知ったように感じられた。視聴者から「番組で言ったことは本当か」という問合せがきたらどう返答するか、との質問に対して「山田先生の説をご紹介した、と言わざるを得ない」(久保田氏)というレベルである。

また、協議会から抗議文書に添付した各種の資料についても十分に読んで理解しているようには感じられなかった。我々の質問や指摘に対する返答も、ほとんどまともに答えることができない状況であった。(もっぱら伊藤氏が返答し、両プロデューサーから具体的な反論は殆どなかった。)

— 以上 —